

## 第三回中央公園第二期整備計画推進会議 会議録

【日時】 令和元年 11 月 8 日（金） 午後 3 時 30 分～4 時 30 分

【場所】 豊田市役所南 51 会議室

### 【出席者】

#### 第三回中央公園第二期整備計画推進会議委員

区 分	委員	役 職	氏 名
地域経済代表	豊田商工会議所	会頭	三宅 英臣
	トヨタ自動車株式会社	総務部長	宮川 尚人
地域まちづくり 代表	豊田まちづくり株式会社	代表取締役	河木 照雄
	豊田市区長会（高橋地区）	地区会長	鈴木 正和(欠席)
	豊田市区長会（美里地区）	地区会長	成田 和也
商業・事業者等	株式会社 豊田スタジアム	代表取締役社長	山本 秀樹
	名古屋鉄道株式会社	経営戦略部 課長補佐	安藤 公治(代理)
	株式会社 J T B	事業推進担当部長	羽田 英司
	一般社団法人ツーリズムとよた	事務局長	山崎 淳
市民等関係団体 (公園利活用)	とよた市民活動センター	所長	堀野 強
	公益財団法人豊田市体育協会	会長	幸村 的美
	豊田森林組合	組合長	鈴木 誠美(欠席)
	豊田市アーバングリーン協会	会長	板倉 重治
	夢農人	会長	石川 龍樹
	一般社団法人おいでん・さんそん	代表理事	鈴木 辰吉
	子育て支援団体キッズプランナー	代表	有我 都 (欠席)
	とよた下町おかみさん会	理事	河原 郁子
行政機関	豊田市	市長	太田 稔彦

オブザーバー	愛知県公園緑地課	主幹	稲吉 豊治(代理)
	株式会社名古屋グランパスエイト	部長	梅村 郁仁

有識者	明治大学	副学長	小林 正美
	大阪府立大学	准教授	武田 重昭

## 【議事内容】

### 1 開会

#### 市長挨拶

豊田市で開催されたラグビーワールドカップの賑わいからスポーツイベントの持つ求心力の大きさ、共感力の強さを強く感じた。今後も多くのイベントがあり、賑わいが続く。様々な催しに関わっていただく中で、将来に向けてのまちづくりを考えていただきたい。

本日の議事予定の基本計画案は、約半年お時間をいただき、計画内容の精査をした結果を後ほど事務局から説明するが、ご確認いただければ、具体的な都市計画の手続きにも入らせていただく予定である。

この基本計画案のほかに、今後の事業の進め方や市民参加の展開について、しっかり委員の皆様と共有していきたい。

ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

#### ◆これまでの取組状況等について

⇒事務局より説明

### 2 議事

#### 1) 基本計画（案）について

⇒事務局より説明

#### 小林副学長（有識者） 補足説明

市民参加のプロセスはよく進んでいる。

スケジュール表をみると長丁場である。開園までの時間を考えると子どもや学生などできれば若い人の参加を促す必要性がある。整備までの期間、関心を持続してもらうために年に一回程度は催しを行うといいと思う。

ハード面では、昨年度の推進会議における計画図では、中央部にリング状の立体横断施設があったが、エリア連携等の観点から、スタジアムからゲート広場に導くような形で、立体横断施設を整備するように整理した。安全上も問題ない。

また、先日の台風19号による多摩川の冠水もあったが、水害への対策として、標高の高いハーフメイド広場が重要となる。

#### 2) 市民に使われる公園づくりについて

⇒武田准教授（有識者）より事例紹介

## 【質疑応答】

稲吉主幹（オブザーバー）

武田准教授の事例紹介の中で、失敗があっても段階的な整備と合わせ改善を重ねていく旨の説明があったが、失敗の事例があれば教えて欲しい。また、地域への波及効果が重要とのことであったが、波及効果とは具体的にはどのようなものを指すか。

武田准教授（有識者）

課題があった時に関係者が話し合いを通じ解決に導くための継続的な協議の場が重要である。物理的な改善とあわせて市民力による改善を図るなどの対応で、日々課題を解決しながら公園運営をすることで改善を図っていく仕組みづくりが求められる。

地域への波及効果については指標を示すまでは至っていないが、安満遺跡公園では市民による開園前からの PR 活動が効果的であったと感じられ、市民活動を通じた波及効果を実感した。

宮川委員

いくつか意見や質問をさせていただく。

1 点目は整備後の維持管理費についてである。市民に納得を得るためにも、維持管理のあり方についても検討する必要がある。

2 点目は、地域への波及効果を生む中核となる公園にしていく一方で、マナー問題や犯罪等の発生を招くことのない場所とするよう検討する必要がある。

3 点目は、A エリアにおいて飛び地になっているエリアがあるが、豊田北高校が残っているとすると、隔絶された場所になると思われる。このようなエリア分けがされた経緯について教えて頂きたい。

事務局

維持管理については、ご指摘の通り必要な考え方なので、ハーフメイド方式による公園の整備の進め方も関わる事ではあるが、維持管理のあり方についてもしっかり考えながら進めていく。

安全の確保については、公園使い等の中で今後議論をしていく。

飛び地となっている A エリアの考え方としては、活用が進みつつある矢作川との連携を期待するエリアとして位置付けている。

稲吉主幹（オブザーバー）

愛知県の県営公園では全ての公園に指定管理制度を導入している。3 パターンあり、「愛知県都市整備協会が直接管理」、「愛知県都市整備協会と造園業者が管理」、「造園業者が単独で管理」のパターンがある。造園業者が関わるパターンでは、剪定や草刈りが迅速に行われるため、良い状態が維持される。そういった手法についても検討してほしい。

B エリアに大きな森ができると思うが、公園に対し市民の愛着を湧かせる手法として、植樹祭形式で行っている自治体が多い。また、B エリアの森を第一期の時に植樹祭形式

で造成するか、または A エリアにも植樹部分があるので、そこを植樹祭形式で植えて、愛着がわくようなことをしていくことも重要かと思う。

ラグビーワールドカップをささしまライブにある屋外ビジョンで観戦したが、芝生広場で千人ほどが観戦していた。そうした使い方が出来る空間も重要だと感じた。

様々な事例を参考としてほしい。

事務局

参考にさせていただく。

### 3 閉会

小林副学長(有識者)

武田准教授の事例は参考になる。担い手が育てば上手くいくので、そういった部分に知恵を絞る必要がある。併せて、豊田市らしさをどう出していくかが重要。また、維持管理や森づくりなど、ハードとともに管理の話もしていく必要がある。今後も、市民・地権者に丁寧に理解を得るように進めてほしい。

市長

100人いれば100通りの考え方があり、公園の完成形は無いと思っている。重要なのは、常にこの場所に関心を持ち続けていること。

それを市が意識していく必要がある。手続きとしては進めていくが、空間の利活用はその時の人がその時に考えて答えを出していけるような形にしたい。

これだけ大きな空間を確保することに価値がある。時代によって考え方や状況も変わっていく。絶えずこの場所に注目してもらい、引き続き、この会議の場を通じ多くの意見をいただきたい。

以上